

「(仮称)琵琶湖保全再生に向けた活用のあり方～保全再生と活用との循環の推進に向けて～」(案)  
原案からの主な修正点について

前回(平成 30 年 1 月 16 日)の琵琶湖環境対策特別委員会で提出した標記の「原案」から、今回提出の「案」での主な修正内容は下記のとおりです。

1. 案の策定に向けた主な意見照会・議論等

(意見照会)

1 月 31 日～2 月 13 日 庁内への意見照会

2 月 13 日～23 日 市町への意見照会

(議論・意見交換等)

1 月 16 日 琵琶湖環境対策特別委員会

1 月 17 日 第 5 回臨時市長会議

2 月 13 日 経済団体連合会との連絡調整会議

2 月 23 日 第 4 回琵琶湖活用推進検討会議(最終回)

2. 主な修正内容

(1) 先人たちの琵琶湖との関わりに関する記述を拡充【資料 2-3 1 ページ】

- 琵琶湖総合開発や石けん運動など、先人たちの琵琶湖との関わりの経緯を踏まえた「あり方」の検討を、との意見をいただき、関連の記述を拡充しました。

(2) 「森林」「河川」にかかる記述を拡充【資料 2-3 4 ページ他】

- 琵琶湖の水源であり、県の面積の 1/2 を占める「森林」について、特に市町から拡充についての意見を多くいただいたことを受け、記述を大幅に追加しました。
- また同様に、森と湖を結ぶ「河川」についても、その重要性を指摘する意見があり、記述を追加しています。

(3) 琵琶湖にまつわる産業についての記述を拡充【資料 2-3 4 ページ他】

- 琵琶湖の活用を「続けるしくみ」の一環として、琵琶湖を取り巻く農林水産業や、環境ビジネスについての記述を拡充しました。
- 特に、琵琶湖漁業の再生については、琵琶湖活用に関わる重要な問題であることから、原案より更に記述を厚くし、水産資源の回復に向けた各種施策や、アユ不漁等の原因究明に向けた、各機関の連携による調査研究などを明記しました。
- また、林業についても、森林関係の記述を拡充したことに伴い、多様な主体による森林づくりへの支援や、林業活動の活性化等も含めた広範な記載を行いました。

(4) 来訪者も参加する保全活動の展開【資料 2-3 15 ページ他】

- 琵琶湖の活用を「続けるしくみ」として、各種の規制に並行して、レジャー客にも各種保全活動に積極的に協力いただくことが必要との意見がありました。
- また、各種の環境保全活動は、体験を通じた学びの場でもあることから、各種の保全活動への参加を推進することを明記しました。

(5) 最終章「保全再生に向けた活用にあたって」の拡充【資料 2-3 17 ページ】

- 前回の「原案」で新たに付記した最終章ですが、前回の委員会で、まとめとしては内容が薄い旨のご指摘をいただいたことから、内容を拡充しました。
- 保全再生に資する活用の推進や多様な主体の協働を通じ、琵琶湖との新たな関わりの中で幅広い共感を得ていただくことで、保全再生に向けた主体的な行動を広げ、琵琶湖の恵みを次世代へと引き継ぐことを明記しました。

「(仮称)琵琶湖保全再生に向けた活用のあり方  
～保全再生と活用との循環の推進に向けて～」案 意見等の主な反映内容について

	該当箇所	意見・修正案等	会議等	意見を受けての対応
1	P1.はじめに	現在の活用の基礎となる琵琶湖総合開発の歴史等を十分に踏まえていないのではないか	市長会 臨時会議	琵琶湖総合開発についての記述を追加
2		琵琶湖総合開発が生態系に大きな影響を与えたことは明記すべき	活用推進 検討会議	
3		目的はあくまでも保全再生をすすめることだ、ということは何度も明記すべき	活用推進 検討会議	P2中段の3パラ冒頭他、「保全再生」が目的であることを改めて明記
4		「石けん運動」は特筆すべき出来事であり、しっかりと記述すべき	活用推進 検討会議	「石けん運動」についての記述を追加
5	P3 (4)活用にあたっての視点 ②様々な循環とその持続可能性	この「あり方」では、保全再生と活用との間に大きな循環を生むことを想定しているが、地域での活動が経済的に成り立つなど、「小さな循環」も大切	活用推進 検討会議	3つ目の○を追加し、「小さな循環」への配慮について言及
6	P4 (1)② 琵琶湖にまつわる産業	アユの不漁は大変大きな課題であり、「あり方」でも明記が望ましい	庁内意見	漁業の現状説明の中で、アユの不漁について明記
7		県では、環境負荷を低減する農業を推進している。	庁内意見	「環境こだわり農業」についての文章を追加 「魚のゆりかご水田」についての文章を修正
8		水源である森林の記載を拡充すべき	市長会 臨時会議 市町意見	森林のはたらきについての文章を追加

	該当箇所	意見・修正案等	会議等	意見を受けての対応
9	P5 (1)③ 観光・レジャー	外来魚釣り大会などは、まさに楽しみながら琵琶湖を保全する実例	活用推進 検討会議	活用の実例として、「また、生態系保全を目的とした外来魚釣り大会が、県内の各地で開催されています。」の記述を追加
10	P6 (1)⑦ スポーツ・レクリ エーション	SEA TO SUMMITのように、山から川、湖というつながりを示す事例を記載した方が 良い	市町意見	平成29年度より開催されている「SEA TO SUMMIT」を、環境スポーツイベントの例として記載
11		東近江市では、湖と森とをつなぐSEA TO SUMMITを実施している	活用推進 検討会議	
12	P7 (1)⑧ 健康・癒し	体を動かす健康づくりだけではなく、湖岸の風景にはストレス解消などの効果もある	琵琶湖環境 対策特別委 員会(1月)	「健康」を「健康・癒し」に拡充し、日常の中で享受することのできる癒しの効果についても記載
13		大会のような大掛かりなものだけでなく、気軽に楽しめることが重要	琵琶湖環境 対策特別委 員会(1月)	
14	P8 (2) 活用への課題 ⑤活用に向けた環 境づくりや活用へ の支援	—	—	農林水産業の記述拡充により分量が増えたため、⑤の中を3つに分割して再整理
15	P9 (2) 活用への課題 ⑥活用に伴う環境 負荷等の抑制	活用に伴う悪影響を抑制すべきは、生活環境に対してだけではなく、漁業などのなりわいに対しても配慮すべき点	庁内意見	「生活環境」を、「暮らしや漁業等のなりわい」と修正
16	P9.3 (1) 琵琶湖の価値を 「知る」しくみ(正し く知る) 3つ目の○	河川を通じ、全県が琵琶湖へと繋がっているという認識は重要	市町意見 活用推進 検討会議	森・川・里・湖のつながりについての記述に、「森林や河川、ヨシ帯や内湖などの」との記述を追加
17		内湖についても言及すべき	市町意見	

	該当箇所	意見・修正案等	会議等	意見を受けての対応
18	P10.3. (3) 琵琶湖の活用を「続ける」しくみ(支える・抑制する) 3つ目の○	環境ビジネスメッセは大きな取組であり、言及して欲しい	経団連との意見交換会	「また、環境と調和のとれた産業の振興や、」追加
19	P12.4. (2) 関わるしくみ i 琵琶湖を「楽しむ」【具体的な取組 方策の例】	マリーナの活用を進めないとお金は生まれない	市長会 臨時会議	「・活用の拠点となるマリーナ等との連携強化による適正な活用の推進」追加
20		琵琶湖への入り口は、普通は水泳や、カヌー、ボートなどであり、マリーナでのモーターボートなどを主と捉えるべきではない	活用推進 検討会議	
21	P12.4. (2) 関わるしくみ ii 琵琶湖に「学ぶ」 3つ目の○	琵琶湖を取りまく産業の役割や価値について、従事者自身への発信とともに、子どもや学生が将来の仕事として選んでくれるように発信をして欲しい	活用推進 検討会議	「○ 琵琶湖を取り巻く各種の産業の価値や、それらの産業とそこで働く人々が琵琶湖環境の保全のために果たす役割を伝えます。」追加
22	P12.4. (2) 関わるしくみ ii 琵琶湖に「学ぶ」 【具体的な取組 方策の例】	清掃活動や外来魚駆除などの活動に参加する中で、体験から学びを得て下さる方が多い	活用推進 検討会議	「・清掃活動や外来魚駆除、水草除去活動等への参加を通じた学びの推進」追加
23		環境ビジネスは、(琵琶湖の知見に)「学ぶ」というより、活用を支えるものではないか	庁内意見	学ぶしくみから、「○ 琵琶湖での経験から学んだ知恵や技術について、国内外における水環境の課題解決に積極的に活かします。」を続けるしくみに移動
24	P15.4. (3) 続けるしくみ i 活用に向けた 環境づくりや活用 への支援	レジャー客に対する規制も大切だが、レジャー客と一緒に環境改善を進めていく姿勢が大事。釣り人による清掃活動なども始まっている	活用推進 検討会議	「・清掃活動や外来魚駆除、水草除去活動等の推進と、県民や企業、来訪者等の主体的な参加協力の機運醸成」追加
25		外来魚駆除や水草除去、住民参加の清掃等、既に具体的に取り組まれているものを反映してはどうか	市町意見	

	該当箇所	意見・修正案等	会議等	意見を受けての対応
26	P15.4. (3) 続けるしくみ i 活用に向けた環境づくりや活用への支援【具体的な取組方策の例】	琵琶湖漁業が持続可能であることは、活用の基盤として不可欠	活用推進検討会議(第3回)	「・湖魚などの資源回復に向けた水ヨシ帯などの産卵繁殖場の造成、湖底環境の改善、種苗放流の実施」 ・アユの不漁原因説明をはじめとする関係機関が連携した調査研究の実施」
27				(1)活用の推進は、保全再生に資するものであることが求められることをしっかりと踏まえ、3つのしくみを通じ施策を展開
28	P17. 活用推進による保全再生に向けて	最後の章が、ここまでにある施策のまとめとしては足りていないのではないか	琵琶湖環境対策特別委員会(1月)	(2)多様な主体が相互の理解を深めながら保全再生に向けた活用を進められるよう、協働を推進
29				(3)琵琶湖との関わりの中で得た共感を契機に、保全再生に向けた主体的な行動を広げ、琵琶湖の恵みを次世代へと引き継ぐ